

愛車協だより 11月号

令和4年11月10日発行
愛知県自動車車体整備協同組合
発行責任者:正治博史

愛車協HP(QRコード)→ →



中部運輸局長表彰



令和4年度中部運輸局運輸関係優良事業者等表彰式が10月27日に中部運輸局共用大会議室において開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮小して、中部運輸局管内5県の表彰受賞者185事業者のうち、安全対策、環境対策、福祉バリアフリー対策など8部門の代表者のみの

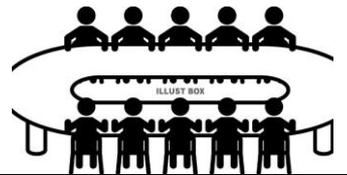


出席となりました。本年度の環境対策の貢献としての表彰は、受賞者62事業者のうち車体整備部門が代表を任せ、愛車協の「松本車体整備株式会社」代表取締役松本様が中部運輸局長から表彰状を授与されました。

(大石局長と記念撮影)

中部運輸局長との懇談会

愛知運輸支局主催による、愛知運輸支局と自動車関係団体との情報交換や意見交換などを毎月第2火曜日に「二火会」と称して開催しています。10月の二火会は11日(火)に開催され、愛知運輸支局からの情報提供など行いました。会議終了後6月に赴任された、大石栄一郎局長との懇談会が設けられ、冒頭、愛知県自動車会議所の細野理事の挨拶の後、各団体の代表者と中部運輸局長との名刺交換があり、大石局長からの挨拶に続き、自動車関連20団体の代表者が各団体の状況及び課題などについて大石局長に要望等行いました、愛車協からは専務理事が出席し、愛車協の現状及び課題などを訴えました。



教育・特認推奨工場部会合同研修会



令和4年度教育・特認推奨工場部会合同研修会が10月20日(水)愛知県自動車会館5F会議室において開催されました。研修内容は前半が愛知運輸支局の青山首席による「IC車検証について」・「優良車体整備事業者制度について」後半は山口税理士による「インボイス制度について」の講義を受けました。出席者は組合員・特別会員及び賛助会員併せて31名の出席がありました。「IC車検証について」の講義は来年

4月から始まる制度だけあって今後の業務に直結する話題でした、また「インボイス制度」の講義については、経営を行う上で重要な話題で有りどちらの講義についても、熱心に聞きっていました。



愛車協の展示コーナー



11月から自動車会館1階ホールにおいて、毎年恒例の電装品整備商工組合、タイヤ商工協同組合及び愛車協の特殊整備部門3団体、いわゆる三特会による展示コーナーを開設しております。愛車協とはどのような団体なのか？車体整備士とは？等々についてパネル、のぼり幟、標識を展示して愛車協をアピールしております。自動車会館にお越しの際は、自動車会館の展示コーナーにもお立ち寄り下さい。

特定整備工場の申請状況

特定整備工場制度開始に伴う取得済工場数は、10月末現在愛知県全体で3290工場（愛整振情報）が電子制御装置整備を取得しており、その内愛車協組合員の取得数は次のとおりです。

- ①整備主任者等資格取得講習者数：144人
- ②電子制御装置整備の特定整備工場取得者数：93社
- ③内新規電子制御装置整備の特定整備工場取得者数：10社



11月は下請取引推進月間

中小企業庁及び公正取引委員会は、下請取引の適正化について、下請代金支払遅延等防止法（以下「下請法」という。）の迅速かつ確かな運用と違反行為の未然防止、下請中小企業振興法（以下「下請振興法」という。）に基づく振興基準の遵守を指導すること等を通じ、その推進を図っています。特に、毎年11月を「下請取引適正化推進月間」とし、下請法の普及・啓発事業を集中的に行っています。詳細は、以下のホームページよりご確認ください。

11月は「下請取引適正化推進月間」です！（経済産業省）

<https://www.meti.go.jp/press/2022/10/20221005003/20221005003.htm>

「下請法・優越的地位の濫用規制に関する講習会（公正取引委員会）」

<https://www.jftc.go.jp/event/kousyukai/shitaukeyuetsu.html#cmsshitauke>

「適正取引支援サイト（中小企業庁運営）」

<https://tekitorisupport.go.jp/>

「価格交渉促進月間（2022年3月）フォローアップ調査結果」

<https://www.meti.go.jp/press/2022/06/20220622002/20220622002.html>



余談.



←このコアラのマークは、ご存じ愛車協のマークです。（ロッテのお菓子のコアラのマーチに似てなくもないですが・・・）

コアラと言えば名古屋のイメージがありますが？そこでチョット調べてみました。

初めてコアラが来日したのは昭和59年10月に名古屋の東山動物、東京の多摩動物公園、鹿児島島の平川動物公園に、オーストラリアのタロンガ動物園から3園に2頭ずつ、6頭が贈られました。翌月から一般公開され3園同時に公開したことで、日本中がコアラブームになりました。昭和59年3月にはロッテから「コアラのマーチ」が発売され、中日ドラゴンズは昭和62年からウインドブレーカーのワッペンと、ホームラン人形にもコアラを使うようになり、平成6年からはマスコットのコアラが登場しました。また、東山動物園では動物の人気投票が開催されていますが、24回開催の内14回もコアラが1位になっています。一方、愛車協のマークは、昭和58年第12回の理事会において、専門家にデザインを依頼した中で、コアラを主体にした1点をマンガ化にすることで承認され、10月には意匠登録されています。コアラブームが来る前に、愛車協のアイドルマークとしてコアラを採用しています。

先人が愛車協のマークとしてコアラを採用したことは、時代を先取りしていたのではないのでしょうか。

先人の先見の明にあやかり、業界の先端を行く愛車協でありたいですね！！